

古文ドリル：「まし」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「まし」の3用法

古文の助動詞「まし」は、**未然形接続**の**反実仮想**を中心とした助動詞。

| 用法 | 訳 | 判別ポイント |
|-----------|------------------|------------------|
| ① 反実仮想 | （もし～であったら）～であろうに | 「ませば／せば／ましかば～まし」 |
| ② ためらい・迷い | ～たらよいのに・～たものだろうか | 疑問詞＋まし |
| ③ 単純な推量 | ～だろう（稀） | 文末で「まし」 |

反実仮想：現実とは反対の仮定。「もし～だったら～なのに（実際は違う）」。古文の「まし」の最も重要な用法。

活用と接続

| 活用形 | 形 |
|-----|--------|
| 未然 | ましか／ませ |
| 連用 | （なし） |
| 終止 | まし |
| 連体 | まし |
| 已然 | ましか |
| 命令 | （なし） |

接続：未然形接続

識別の鉄則

- 「ませば／せば／ましかば」＋「まし」 → 反実仮想（最頻出）
- 疑問詞＋「まし」 → ためらい・迷い

3. 単独で文末 → 推量（稀）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「せば／ませば／ましかば」を見たら即・反実仮想

これは合言葉。文中に「ませば／せば／ましかば」があつて、後ろに「まし」 → **反実仮想で確定**。

例：見**ませば**～慰めな**まし** / あら**ましかば**～思は**まし**

→ 「せば」「ましかば」を探すのが最速ルート。8割の問題はこれで終わる。

コツ② 疑問詞＋「まし」 → ためらい・迷い

「いかに／いかにせまし／何せまし／いづれにせまし」のパターンは **ためらい・迷い**（～たらよいだろうか）。例：いかに**かせまし** / いづちか行か**まし**

→ 疑問詞があつて反実仮想の合図がなければ、ためらいで即答。

コツ③ 「な＋まし」は反実仮想とセット

「ませば～なまし」のように、結びの「まし」の直前が「**な**」（完了「ぬ」未然） → **反実仮想の典型形**。例：見**ませば**心慰め**なまし** → 「見たならば心が慰められただろうに」

コツ④ 単独で文末「まし」は単純推量（稀）

仮定の合図（せば／ましかば）も疑問詞もなく、ただ文末で「～まし」 → 単純な推量（～だろう）。ただし入試で出るのは稀なので、まず①②を疑え。

試験本番でのチェック順序

1. 文中に「せば／ませば／ましかば」 → 反実仮想
2. 文中に **疑問詞**（いかに・何・いづれ・いかが） → ためらい・迷い
3. 上記なしで文末「まし」 → 単純推量（稀）

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- 「ましかば」が **已然形「ましか」**＋ば であることに注意（未然形ではない）
- 「まし」連体形が体言の前に来ることもある（～ましこと）
- 反実仮想は「**現実とは反対**」の仮定。本文の文脈で実際は起きていないことを言っている

採点表

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- 合計 : /100

【第1部】 基礎編

Q1. 「まし」の用法を答えよ。

月を見ませば、心慰めなまし。

Q2. 「まし」の用法を答えよ。

春来たらば、花咲かまし。

Q3. 「まし」の用法を答えよ。

いかにかせまし、と心迷ふ。

Q4. 「まし」の用法を答えよ。

知らましかば、教へなまし。

Q5. 「まし」の用法を答えよ。

行かましかど、雨ふり来。

Q6. 「まし」の用法を答えよ。

春過ぎば、人みな嘆かまし。

Q7. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人に問はましかば、答へなまし。

Q8. 「まし」の用法を答えよ。

何にせましと、独り嘆く。

Q9. 「まし」の用法を答えよ。

風吹かば、波立たまし。

Q10. 「まし」の用法を答えよ。

春の夢を見ましかば、心安らがまし。

Q11. 「まし」の用法を答えよ。

行かましやは。

Q12. 「まし」の用法を答えよ。

古典を読みましかば、心養はまし。

Q13. 「まし」の用法を答えよ。

我れも詠まましを、しかし詠まず。

Q14. 「まし」の用法を答えよ。

親に問はば、答えなまし。

Q15. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる言葉にせまし。

Q16. 「まし」の用法を答えよ。

月の都に住みましかば、月をめでなまし。

Q17. 「まし」の用法を答えよ。

我れ歌詠まば、いかに楽しまし。

Q18. 「まし」の用法を答えよ。

山に登らましやと迷ふ。

Q19. 「まし」の用法を答えよ。

君が心、知りましかば、なほ恋しからまし。

Q20. 「まし」の用法を答えよ。

いまさら知らば、悔やままし。

基礎編 / 20

【第2部】標準編

Q21. 「まし」の用法を答えよ。

古典を学ばましかば、いかに賢からまし。

Q22. 「まし」の用法を答えよ。

風吹かましかば、波静かならまし。

Q23. 「まし」の用法を答えよ。

何処に行かましと思ひ立つ。

Q24. 「まし」の用法を答えよ。

我れも見ば、悲しからまし。

Q25. 「まし」の用法を答えよ。

仏に祈らましかば、安心せまし。

Q26. 「まし」の用法を答えよ。

何か言はましと心迷ふ。

Q27. 「まし」の用法を答えよ。

君を見ましかば、嘆かざらまし。

Q28. 「まし」の用法を答えよ。

風吹かば、舟漕がまし。

Q29. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる宿世にあらばやあらまし。

Q30. 「まし」の用法を答えよ。

我れ古典を究めば、いかに尊からまし。

Q31. 「まし」の用法を答えよ。

月の都の人ならば、いま帰らまし。

Q32. 「まし」の用法を答えよ。

命長からましかば、いかに楽しからまし。

Q33. 「まし」の用法を答えよ。

雨止まば、出でなまし。

Q34. 「まし」の用法を答えよ。

心安かれと祈らましかば、安らがなまし。

Q35. 「まし」の用法を答えよ。

いかにせましかと迷ふ。

Q36. 「まし」の用法を答えよ。

我れ若かりましかば、何事も成しまし。

Q37. 「まし」の用法を答えよ。

古典を解する人にありせば、これを問はまし。

Q38. 「まし」の用法を答えよ。

月見ましかば、心開けまし。

Q39. 「まし」の用法を答えよ。

いまさら何せまし。

Q40. 「まし」の用法を答えよ。

春雨降らましかば、桜散らなまし。

Q41. 「まし」の用法を答えよ。

我れ知らば、誰にか語らまし。

Q42. 「まし」の用法を答えよ。

心安く眠らましかば、夢も見まし。

Q43. 「まし」の用法を答えよ。

いざ参らましやほと、迷ふ。

Q44. 「まし」の用法を答えよ。

都に住まば、なほ古き友、訪ねまし。

Q45. 「まし」の用法を答えよ。

何か思ひましと、独り嘆く。

Q46. 「まし」の用法を答えよ。

花を見ましかば、なほ咲きいでまし。

Q47. 「まし」の用法を答えよ。

古典を学ばば、心養はまし。

Q48. 「まし」の用法を答えよ。

何せましかと、心迷ふ。

Q49. 「まし」の用法を答えよ。

月清く照らましかば、夜更けて見まし。

Q50. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる人にあらましやと、迷ふ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編

Q51. 「まし」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと問はましかば、答へまし。

Q52. 「まし」の用法を答えよ。

雪のいと高う降りたるを見ましかば、いかに趣あらまし。

Q53. 「まし」の用法を答えよ。

古典をひもとかば、いかに心養はまし。

Q54. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人にあらましかば、これを尊しと思はまし。

Q55. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる宿世にあらましかと思ふ。

Q56. 「まし」の用法を答えよ。

仏に祈らば、心安らがまし。

Q57. 「まし」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘まましかば、夏に栄えまし。

Q58. 「まし」の用法を答えよ。

我れ何せましと独り嘆く。

Q59. 「まし」の用法を答えよ。

月見ましかば、夜更け知らまし。

Q60. 「まし」の用法を答えよ。

古き友、いま訪ねば、いかに喜ばまし。

Q61. 「まし」の用法を答えよ。

心定まらば、いかに楽しからまし。

Q62. 「まし」の用法を答えよ。

古典の心を解する人にあらましかば、なほ尊し。

Q63. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人を訪ねば、いかに語らはまし。

Q64. 「まし」の用法を答えよ。

旅に出でましかば、なほ多く見まし。

Q65. 「まし」の用法を答えよ。

古典を学ばば、心養はまし。

Q66. 「まし」の用法を答えよ。

我れ若き時にあらましかば、いかに学ばまし。

Q67. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる人にあらましかと、心迷ふ。

Q68. 「まし」の用法を答えよ。

月を愛でましかば、夜更けまで楽しままし。

Q69. 「まし」の用法を答えよ。

春来たらば、いかに楽しまし。

Q70. 「まし」の用法を答えよ。

いかに迷はましかと心定まらず。

Q71. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人にあらましかば、これをいたはらまし。

Q72. 「まし」の用法を答えよ。

何せましかと、悩む。

Q73. 「まし」の用法を答えよ。

春雨降らば、桜なほ咲かまし。

Q74. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる御縁にて、君と会はましかと思ふ。

Q75. 「まし」の用法を答えよ。

古き友、なほ我れに語らましかば、心安らがまし。

Q76. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる道を選ばましかと、心迷ふ。

Q77. 「まし」の用法を答えよ。

月清く照らば、夜長からまし。

Q78. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人にあらましかば、これを伝へまし。

Q79. 「まし」の用法を答えよ。

何方に向かましかと、心迷ふ。

Q80. 「まし」の用法を答えよ。

月の都の人ならば、いま帰らまし。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル

Q81. 「まし」の用法を答えよ。

世の中にたえて桜のなかりせば、春の心はのどけからまし（古今和歌集）

Q82. 「まし」の用法を答えよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと問はば、いかに答えまし。

Q83. 「まし」の用法を答えよ。

古き世にあらましかば、なほ古典を楽しままし。

Q84. 「まし」の用法を答えよ。

いかにせん、いかにせまし。

Q85. 「まし」の用法を答えよ。

風雅を解する人にあらましかば、心通はましを、いまや叶はず。

Q86. 「まし」の用法を答えよ。

春の野に若菜摘みせば、夏に栄えまし。

Q87. 「まし」の用法を答えよ。

月見ましかば、心開けまし。

Q88. 「まし」の用法を答えよ。

古典を究めば、なほ心養はましを、いまだ究めず。

Q89. 「まし」の用法を答えよ。

いかなる人にあらましかと、独り迷ふ。

Q90. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人を訪ねば、いかに語らまし。

Q91. 「まし」の用法を答えよ。

月の都の人ならば、いま帰りせば、なほ栄えまし。

Q92. 「まし」の用法を答えよ。

古典を学ばましかば、いかに心強からまし。

Q93. 「まし」の用法を答えよ。

何せましかと、ただ嘆くのみ。

Q94. 「まし」の用法を答えよ。

春雨降りせば、桜散らざらまし。

Q95. 「まし」の用法を答えよ。

仏に祈らましかば、心安らがましを。

Q96. 「まし」の用法を答えよ。

古き友、いま訪ねば、心通はまし。

Q97. 「まし」の用法を答えよ。

我れ若かりせば、何事も成しまし。

Q98. 「まし」の用法を答えよ。

心ある人にあらましかば、これをいたはらまし。

Q99. 「まし」の用法を答えよ。

何か言はましやと、心迷ふ。

合計 / 100

あとかぎ

「まし」の識別の核心： - 「ませば／せば／ましかば」 + 「まし」の構文 → 反実仮想（最頻出） - **疑問詞** が前にあれば → ためらい・迷い - 単独で文末 → 単純な推量（稀）

「まし」は古文の中で **反実仮想** を表す唯一の助動詞。「もし～だったら～なのに（実際は違う）」の構文を完全に押さえること。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

© 個別指導塾フィット / 中本裕太 <https://kotennosenensei.com>